

# 2023年度 3Q決算

2024年2月5日

オムロン株式会社

## 4Q期間の見通し状況を踏まえ、通期の業績見通しを下方修正する

### ● 2023年度 3Q実績

- ・ 制御機器事業・電子部品事業は、設備投資需要が低迷。売上高・営業利益ともに低調に推移
- ・ ヘルスケア事業・社会システム事業は堅調な需要が継続、好調に推移

### ● 2023年度 通期見通し

- ・ 4Q期間は制御機器事業・電子部品事業の緩やかな回復が見込めず、低調な市況が継続
- ・ 売上高が前回見通しを大きく下回ると同時に、生産量の減少、在庫の引当金増加などにより売上総利益率が低下。営業利益は前回見通しを大きく下回る

### ● 今後の経営施策について

# 目次

- 1. 2023年度 3Q実績 …… P.3 ~ P.7
- 2. 2023年度 通期見通し …… P.8 ~ P.16
- 3. 今後の経営施策について …… P.17 ~ P.19

# 1. 2023年度 3Q実績

# 3Q期間（10月-12月）：全社実績

大幅な減収減益。売上総利益率、営業利益率ともに大きく低下

(億円)

	2022年度 3Q期間実績	2023年度 3Q期間実績	前年 同期比
売上高	2,336	<b>2,073</b>	△11.2%
売上総利益 (売上総利益率)	1,053 (45.1%)	<b>861</b> <b>(41.5%)</b>	△18.2% (△3.6P)
営業利益 (営業利益率)	312 (13.4%)	<b>59</b> <b>(2.9%)</b>	△81.0% (△10.5P)
当期純利益	226	<b>18</b>	△92.2%
米ドル 平均レート (円)	144.0	148.7	+4.7
ユーロ 平均レート (円)	144.5	159.4	+14.9
人民元 平均レート (円)	20.1	20.5	+0.4

# 3Q期間（10月-12月）：事業セグメント別実績

制御機器事業、電子部品事業は、減収減益。ヘルスケア事業、社会システム事業は増収増益

	売上高			営業利益 (億円)		
	2022年度 3Q期間実績	2023年度 3Q期間実績	前年 同期比	2022年度 3Q期間実績	2023年度 3Q期間実績	前年 同期比
制御機器事業 (I A B)	1,289	915	△29.0%	253 (19.6%)* <sup>1</sup>	9 (1.0%)	△96.5% (△18.7P)
ヘルスケア事業 (H C B)	386	427	+10.5%	48 (12.4%)	68 (15.9%)	+42.0% (+3.5P)
社会システム事業 (S S B)	273	372	+36.2%	12 (4.4%)	42 (11.3%)	+254.3% (+7.0P)
電子部品事業 (D M B)	364	274	△24.8%	54 (14.8%)	5 (1.7%)	△91.3% (△13.1P)
データソリューション事業 (D S B)* <sup>2</sup>	—	74	—	— —	6 (8.1%)	— —
本社他 (消去調整含む)	23	13	△45.9%	△ 55	△70	—
合計	2,336	2,073	△11.2%	312 (13.4%)	59 (2.9%)	△81.0% (△10.5P)

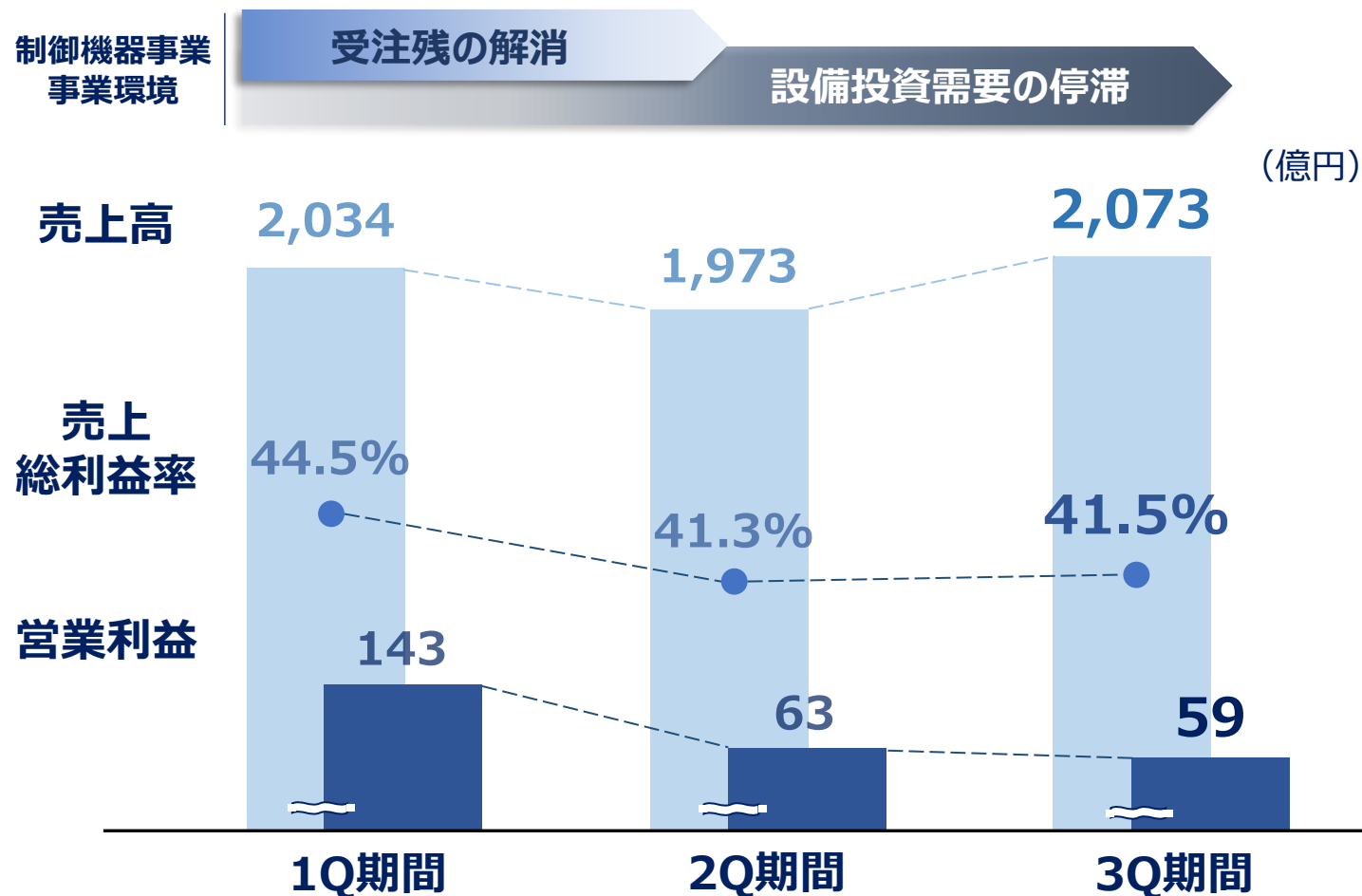
\*1. 営業利益の表にある()は、営業利益率を示す

\*2. データソリューション事業 (DSB) は、第3四半期連結会計期間より新設。JMDC業績ならびに連結に伴う関連費用（無形資産償却費、取得関連費）を含む

# 四半期推移：全社実績

2Qから3Qにかけて売上高は伸長、売上総利益率・営業利益は横ばいで推移

## 四半期業績推移



## 3Q期間のポイント

制御機器事業・  
電子部品事業は低調に推移

ヘルスケア事業・  
社会システム事業は好調に推移

JMDC社の連結子会社化

売上高 74億円 営業利益 6億円

# 3Q累計（4月-12月）：全社実績

(億円)

	2022年度 3Q累計実績	2023年度 3Q累計実績	前年 同期比
売上高	6,380	<b>6,080</b>	△4.7%
売上総利益 (売上総利益率)	2,868 (45.0%)	<b>2,582</b> <b>(42.5%)</b>	△10.0% (△2.5P)
営業利益 (営業利益率)	729 (11.4%)	<b>266</b> <b>(4.4%)</b>	△63.5% (△7.0P)
当期純利益	505	<b>78</b> <sup>*</sup>	△84.5%
米ドル 平均レート (円)	135.7	142.9	+7.2
ユーロ 平均レート (円)	140.3	155.0	+14.7
人民元 平均レート (円)	19.8	20.0	+0.1

\*当期純利益はJMDC株式追加取得に伴う再評価にかかる損失（120億円）を含む



## 2. 2023年度 通期見通し

# 2023年度 通期：全社見通し

## 通期見通しを下方修正する

(億円)

	2023年度 前回見通し	2023年度 <sup>*1</sup> 今回見通し	前回見通し比	2022年度 実績	前年度比
売上高	8,500	<b>8,100</b>	△4.7%	8,761	△7.5%
売上総利益 (売上総利益率)	3,660 (43.1%)	<b>3,390</b> <b>(41.9%)</b>	△7.4% (△1.2P)	3,939 (45.0%)	△13.9% (△3.1P)
営業利益 (営業利益率)	450 (5.3%)	<b>240</b> <b>(3.0%)</b>	△46.7% (△2.3P)	1,007 (11.5%)	△76.2% (△8.5P)
当期純利益	180 <sup>*2</sup>	<b>15</b> <sup>*2</sup>	△91.7%	739	△98.0%
ROE	2%程度	<b>1%程度</b>	-	10.6%	-
ROIC	2%程度	<b>1%程度</b>	-	10.4%	-
EPS (円)	91	<b>8</b>	△91.7%	372	△98.0%
米ドル 平均レート (円)	140.0	143.4	+3.4	135.2	+8.2
ユーロ 平均レート (円)	153.9	155.0	+1.1	140.9	+14.0
人民元 平均レート (円)	19.6	20.0	+0.4	19.7	+0.3

\*1.2023年度今回見通しにおける4Q期間の為替レートは 米ドル 145.0円、ユーロ 155.0円、人民元 20.0円  
2023年度今回見通しに、JMDCが業績見通しに反映する下期相当分を織り込む

\*2.当期純利益はJMDC株式追加取得に伴う再評価にかかる損失（120億円）を含む

# 2023年度 通期：セグメント別見通し

制御機器事業、電子部品事業は下方修正。社会システム事業は上方修正

(億円)

## 売上高

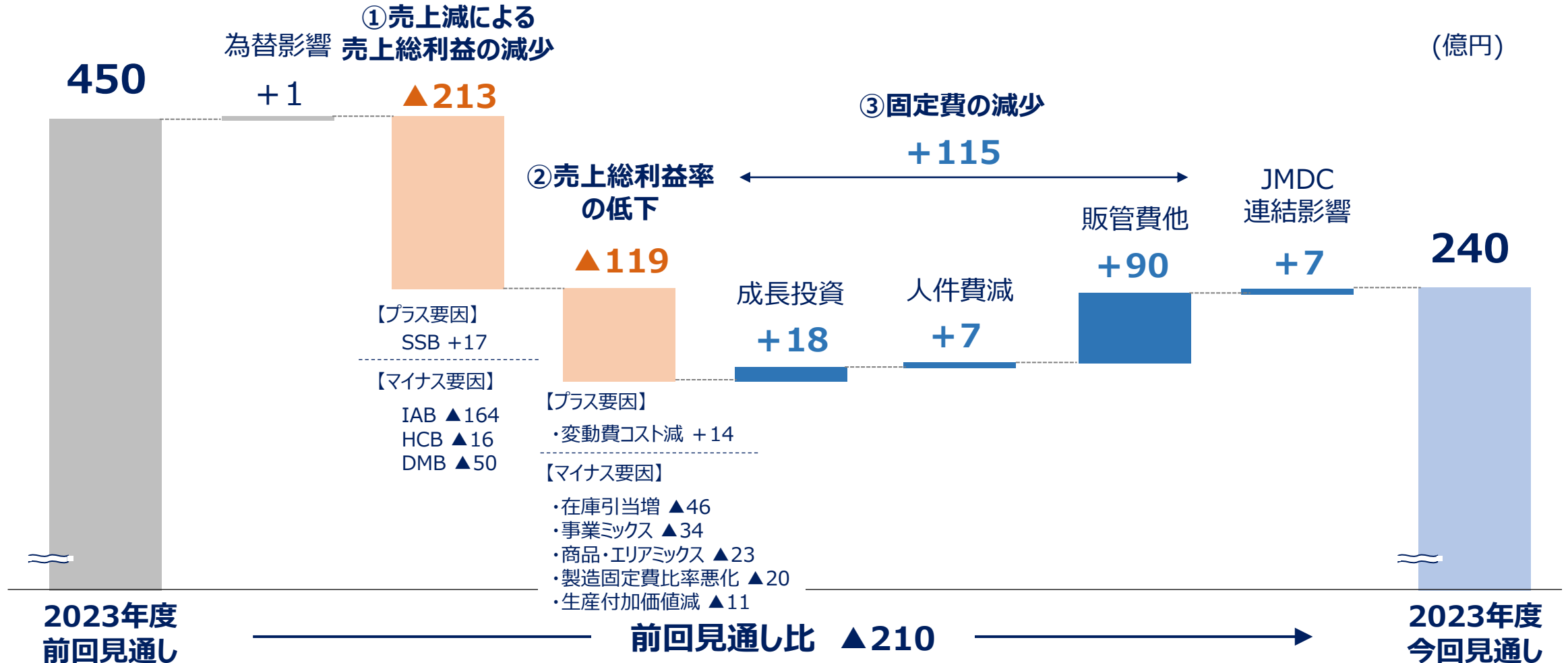
## 営業利益

	2023年度 前回見通し	2023年度 今回見通し	前回見通し 差異	前年度 差異	2023年度 前回見通し	2023年度 今回見通し	前回見通し 差異	前年度 差異
制御機器事業 (I A B)	4,200	<b>3,885</b>	△315	△972	295 (7.0%)	<b>140</b> (3.6%)	△155 (△3.4P)	△718 (△14.1P)
ヘルスケア事業 (H C B)	1,520	<b>1,505</b>	△15	+84	175 (11.5%)	<b>175</b> (11.6%)	- (+0.1P)	+15 (+0.4P)
社会システム事業 (S S B)	1,370	<b>1,410</b>	+40	+337	135 (9.9%)	<b>145</b> (10.3%)	+10 (+0.4P)	+70 (+3.3P)
電子部品事業 (D M B)	1,230	<b>1,135</b>	△95	△254	55 (4.5%)	<b>15</b> (1.3%)	△40 (△3.1P)	△140 (△9.8P)
データソリューション事業 (D S B)*	165	<b>190</b>	+25	-	18 (10.9%)	<b>25</b> (13.2%)	+7 (+2.2P)	- -
本社他 (消去調整含む)	15	△ <b>25</b>	△40	△46	△228	△ <b>260</b>	△32	△18
合計	8,500	<b>8,100</b>	△400	△661	450 (5.3%)	<b>240</b> (3.0%)	△210 (△2.3P)	△767 (△8.5P)

\*データソリューション事業の2023年度今回見通しに、JMDCの連結業績予想（当社グループの通期業績予想を見通す上での、当社算定による概算値）を含む  
前回決算時のセグメント別見通し上、「本社他」に含めていたJMDC業績予想についてもデータソリューション事業に組み換え

# 2023年度 通期：営業利益増減（前回見通し比）

制御機器事業・電子部品事業の売上減、売上総利益率低下の影響を受ける。  
 全社で固定費効率化を進めるも、前回見通しから大幅減

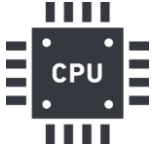
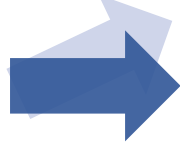

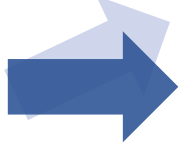






(参考) 営業利益増減の前年対比については参考資料にて掲載

# 制御機器事業：下方修正の要因

デジタル・環境モビリティ業界を中心に、売上高は前回見通し比で減少

4Q期間の事業環境・売上見通しの変化

注力業界	設備投資 需要トレンド	前回見通しとの 差異	下方修正の要因
 デジタル		▲105億円	<b>① デジタル、環境モビリティ業界の 商談テーマリスクの評価不足</b>  ・これまでの顧客・売上構造を前提とした 予測プロセスと判断  <b>② ボラティリティの高いデジタル、 環境モビリティ業界への売上依存</b>  ・半導体、二次電池、太陽光発電システム 顧客への売上依存
 環境モビリティ		▲65億円	
 食品&日用品		▲25億円	
 医療・物流		▲20億円	

前回見通し  今回 

# 制御機器事業：営業利益 大幅減少の要因

売上減に、在庫引当金の増加と硬直的な固定費の影響が加わり、営業利益は大幅に減少

## 4Q期間の営業利益見通しの変化

営業利益の変化要因	前回見通しとの差異
売上減	事業環境
	▲107億円
売上総利益率の低下	代理店在庫の滞留
	商品・エリアミックス
	生産付加価値
	▲58億円
固定費	在庫引当
	製造固定費
販管費・開発費	+35億円

## 営業利益 大幅減少の要因

### ① 在庫引当金の増加

- ・ 22年度 サプライチェーン混乱期に発注した長納期部品在庫の増加

### ② 硬直的な固定費

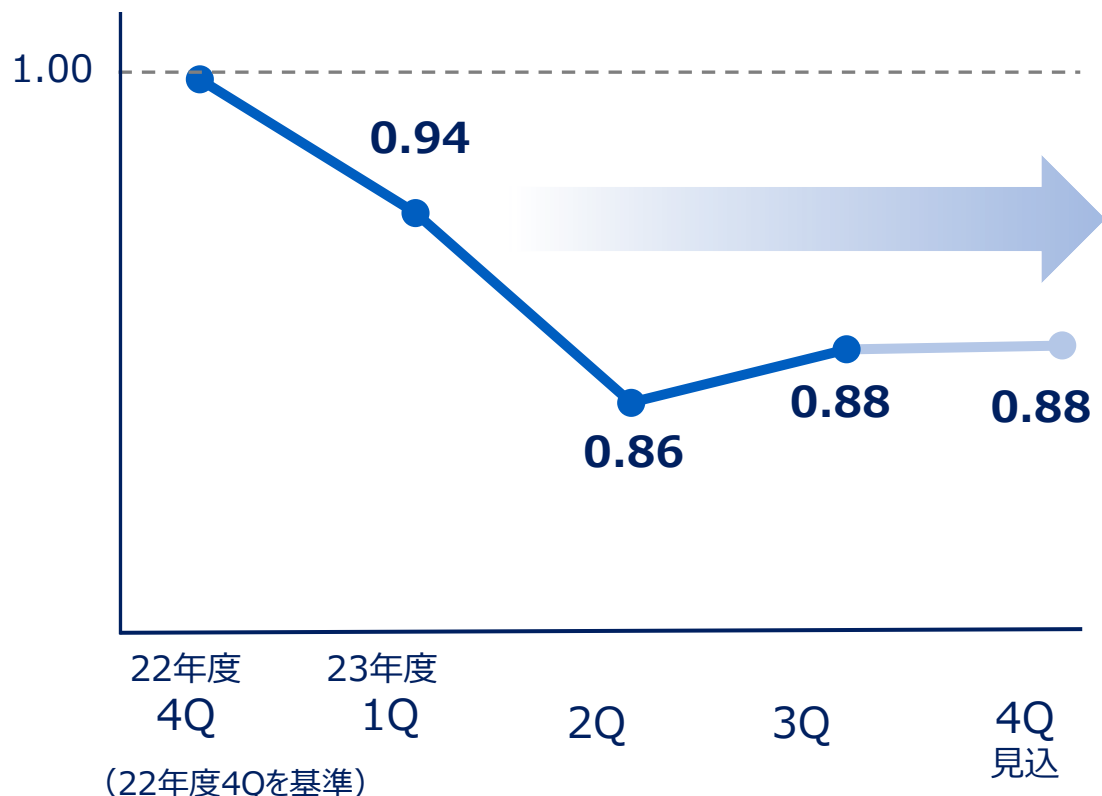
- ・ インフレに伴う人件費、ITシステムの運営・保守費用の上昇

# 制御機器事業：受注・代理店在庫水準の推移

受注水準は底打ち、代理店在庫はピークアウトし着実に解消が進む。  
売上は、24年度上期まで現在の状況が継続、下期以降緩やかに回復に向かう

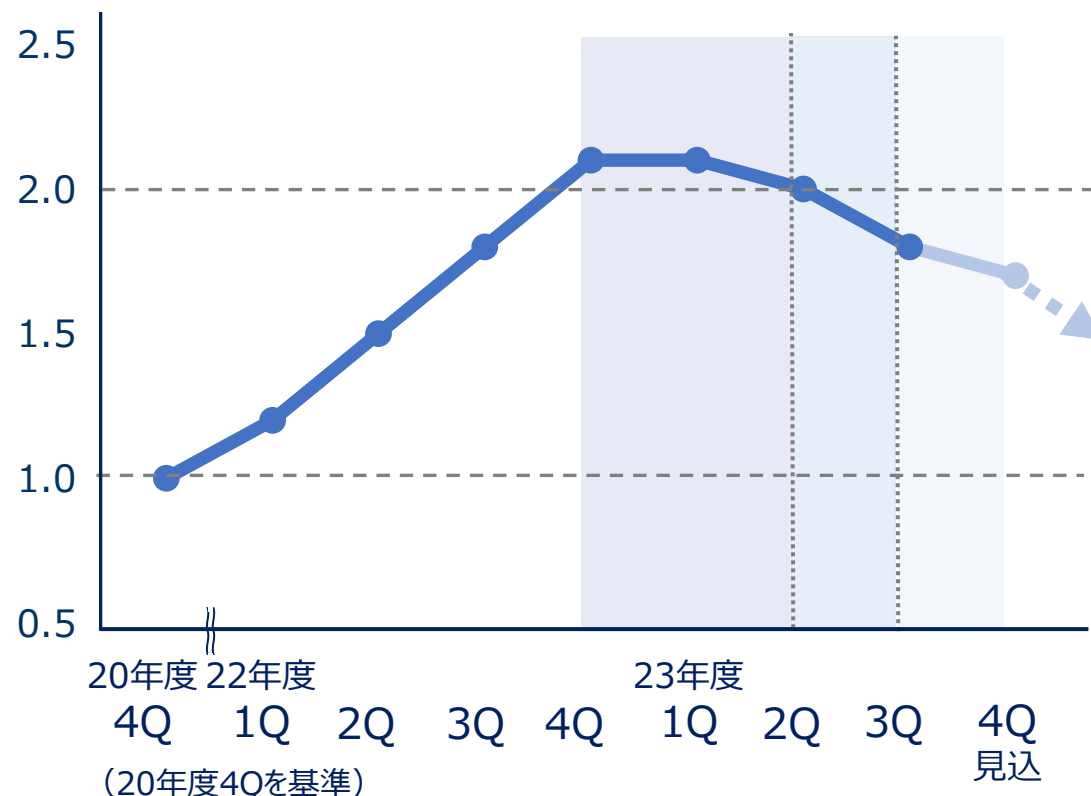
## 受注水準の推移

24年度下期からの受注回復を見込む



## 代理店在庫水準の推移 (全エリア平均)

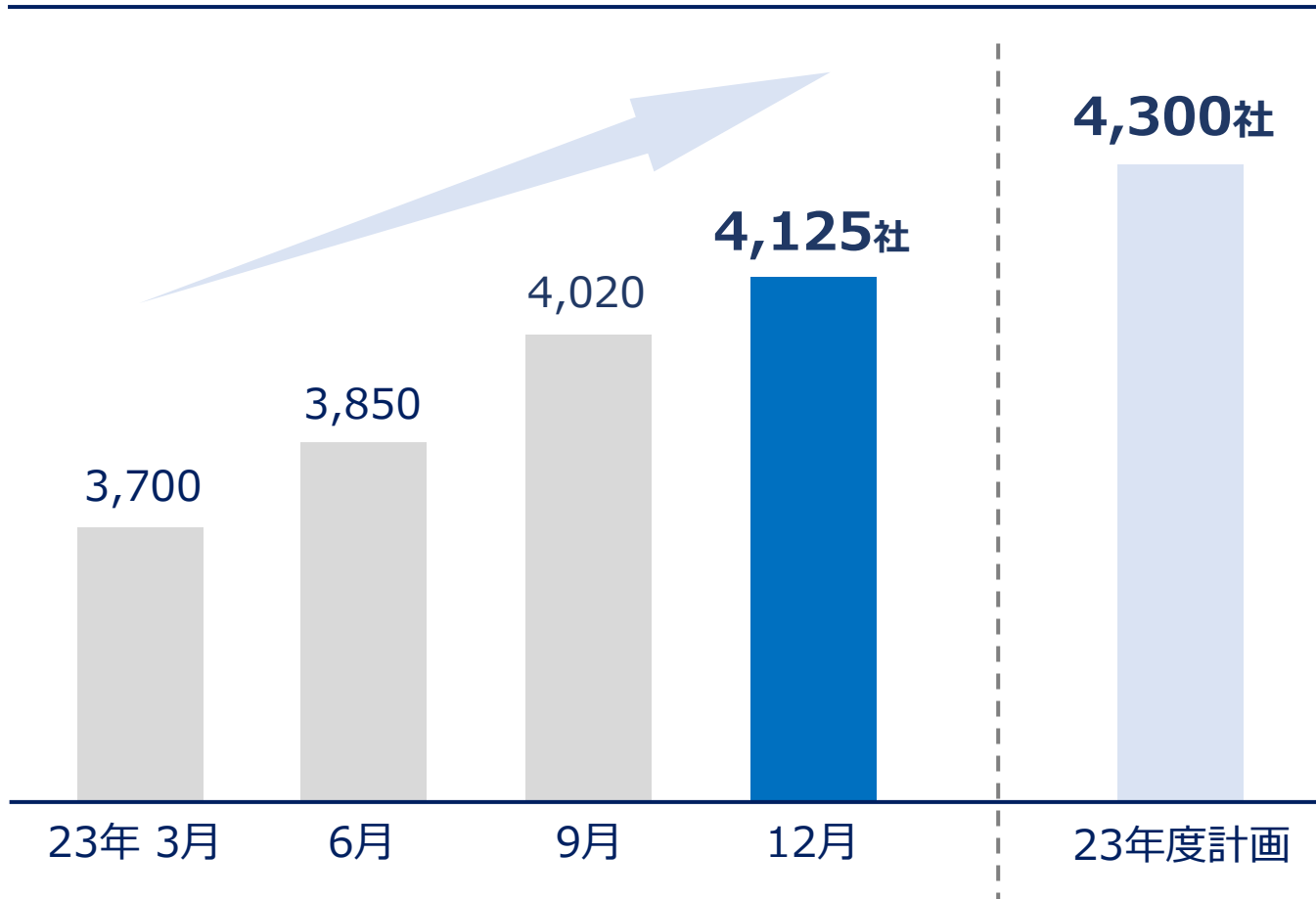
24年度上期中の正常化を見込む



# 制御機器事業：i-Automation!採用顧客数の推移

i-Automation!採用顧客数は3Q期間も増加。年間計画に対し着実に進捗

## i-Automation! 採用顧客数の推移（累計）



3Q期間 顧客増加数

**+ 105社**

エリア別内訳

日本	中華圏	欧州	米州	東南アジア他
+22社	+31社	+20社	+11社	+21社

年間計画に対する進捗率\*（3Q時点）

**71%**

\*23年度 顧客数増加計画600社に対する進捗率



# 株主還元について

期末配当は、前回予想通り52円を計画。年間配当は期初計画の104円から変更しない

配当

期末配当 (予想)

52円

22年度比：3円増配

年間配当 (予想)

104円

22年度比：6円増配

### 3. 今後の経営施策について

**【経営課題】**

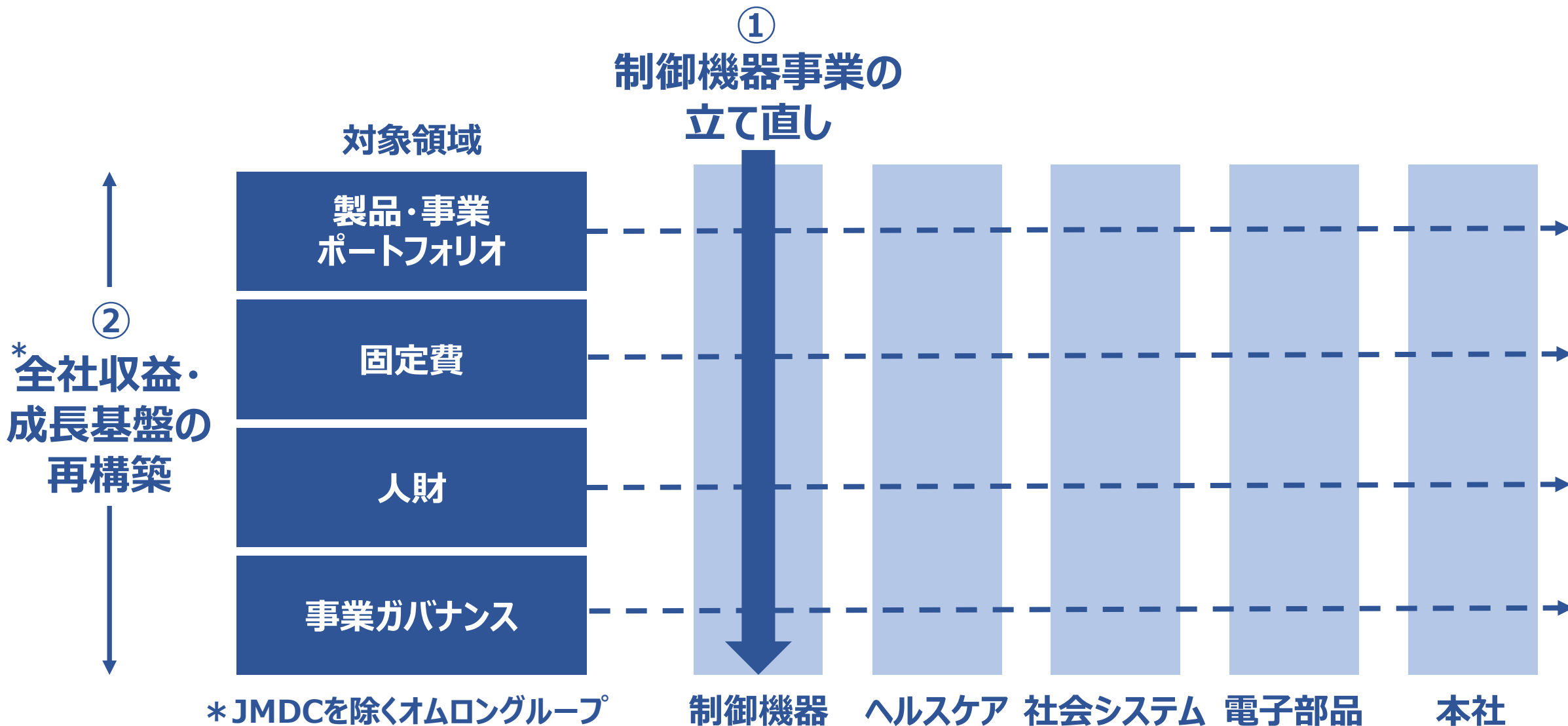
**顧客起点での構造改革の完遂**

**【構造改革期間】**

**2023年10月～2025年度上期  
(24カ月)**

# 構造改革の実行

収益基盤・成長基盤の再構築に向けて、顧客起点での構造改革を実行する



**OMRON**

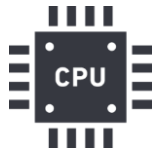
# 参考資料

# 4Q期間の事業環境認識（IAB）

市場全体で投資需要が低位継続。  
デジタル・環境モビリティ業界を中心に、一部領域で回復に至らず2Q想定を下回る

## 注力業界

## 事業環境認識



### デジタル

- 半導体は、大手各社の投資延期が継続。  
2Q時に想定した一部領域で、回復に至らず低調に推移
- 太陽光発電システム（PV）は、2Q時の想定以上の投資縮小が継続



### 環境モビリティ

- EV完成車・部品投資は、2Q時に想定した回復に至らず、低調に推移
- 二次電池は、投資延期・縮小が継続、2Q時の想定を下回り低調に推移



### 食品&日用品

- 欧州で慎重な投資姿勢。2Q時の想定を下回り低調に推移
- 新興国での投資は2Q時の想定通り好調



### 医療・物流

- 医薬品投資は、2Q時に想定した回復に至らず、低調な需要が継続
- コロナ禍での物流需要急増の反動減が長期化、想定通り低水準で推移

# 4Q期間の事業環境認識（HCB・SSB・DMB）

ヘルスケア事業は総じて底堅く、社会システム事業は需要の拡大が継続。  
電子部品事業は、前回の想定を下回り低調な事業環境が継続

## ヘルスケア 事業 (HCB)

### 2Q時の想定通り、総じて底堅い事業環境が継続

循環器：血圧計市場は、エリアごとに濃淡はあるも、概ね2Q時の想定どおり緩やかに成長  
呼吸器：ネブライザは3Q期間に中国で需要が高まるも平準化を見込む  
体温計：日本におけるコロナ特需反動の影響が長期化、需要は2Q時の想定より低位継続

## 社会システム 事業 (SSB)

### 2Q時の想定通り、好調な事業環境が継続

エネルギー：電気代高騰を背景に、住宅領域での再エネ関連投資が2Q時の想定を上回り推移  
鉄道業界：利用者数の回復や運賃改定に伴い、鉄道各社の設備投資は2Q時の想定以上に拡大

## 電子部品 事業 (DMB)

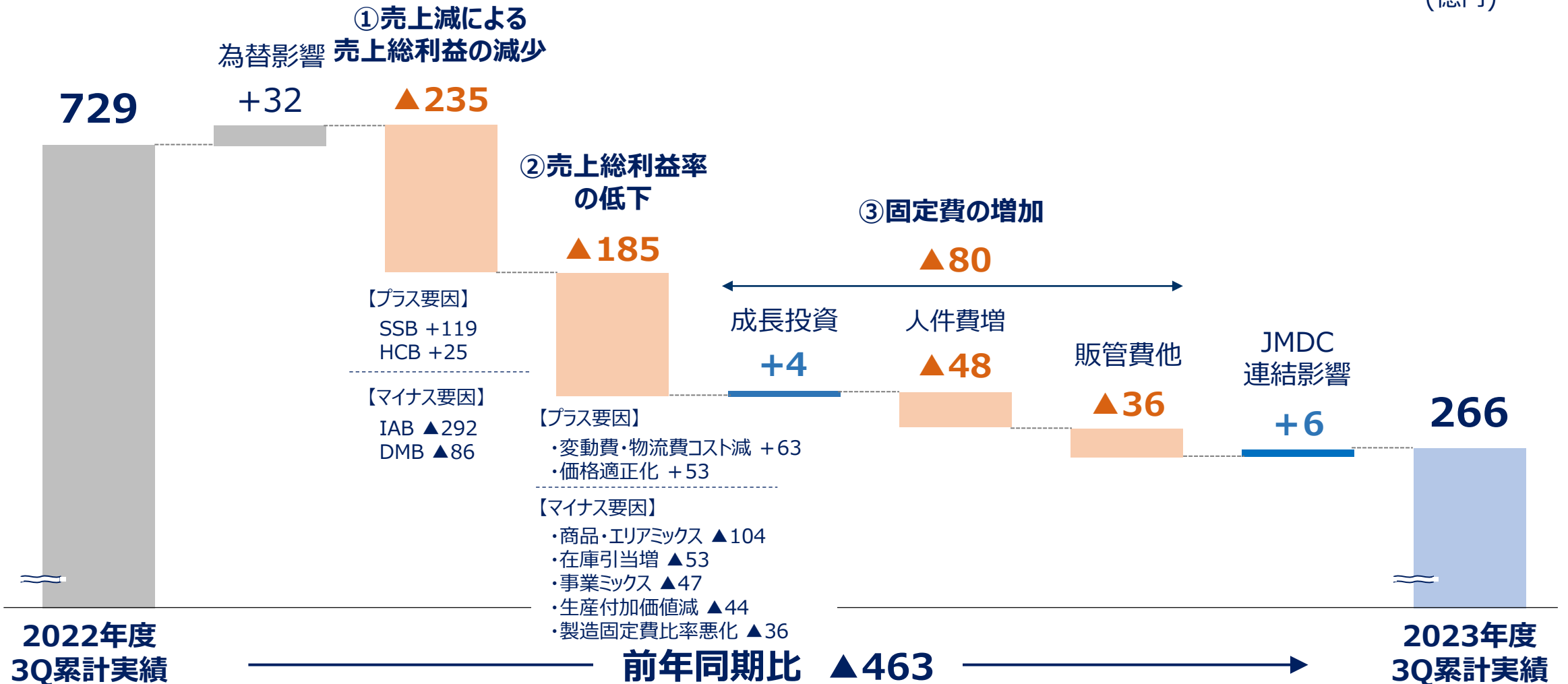
### 2Q時の想定を下回り、低調な事業環境が継続

DC(直流)機器・高周波機器：中国経済の減速を背景に、工場向けの設備投資やインフラ投資の低迷が継続  
汎用機器：中国・欧州経済停滞の影響を受け、一部の家電やOA機器等の需要が低迷

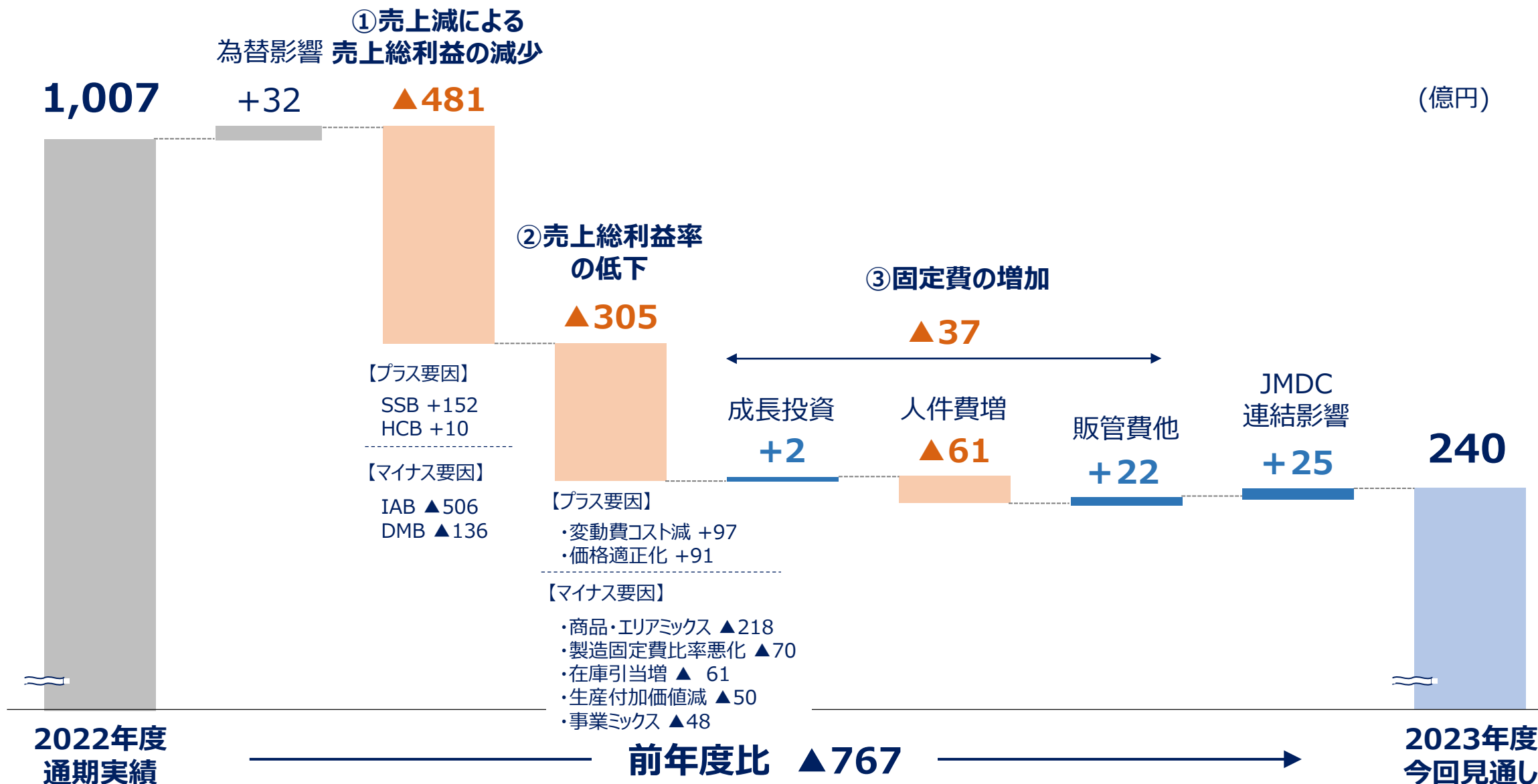


# 3Q累計：営業利益増減（前年同期比）

(億円)



# 2023年度 通期：営業利益増減（前年度比）



# 連結貸借対照表

(億円)

	2023年3月末	2023年12月末	前年度末差異
流動資産	4,869	5,237	+368
（現金及び現金同等物）	(1,053)	(1,293)	(+240)
（たな卸資産）	(1,739)	(1,880)	(+140)
有形固定資産	1,296	1,342	+46
投資その他の資産	3,817	6,266	+2,449
資産の部合計	9,982	12,844	+2,863
流動負債	2,100	2,784	+684
固定負債	569	896	+327
負債の部合計	2,669	3,680	+1,011
株主資本	7,285	7,531	+246
非支配持分	28	1,633	+1,606
純資産の部合計	7,312	9,164	+1,852
負債及び純資産合計	9,982	12,844	+2,863
株主資本比率	73.0%	58.6%	△ 14.4P

# 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2022年度 3Q累計実績	2023年度 3Q累計実績	前年同期差異
営業活動によるキャッシュ・フロー (営業CF)	202	319	+116
投資活動によるキャッシュ・フロー (投資CF)	△386	△791	△405
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	△184	△472	△289
財務活動によるキャッシュ・フロー (財務CF)	△568	668	+1,236
期末の現金残高	876	1,293	+417
設備投資	284	290	+6
減価償却費	198	223	+25

# 2023年度の為替感応度・為替前提

1円変動(人民元は0.1円)による影響額(通期)

	為替感応度		為替前提
	売上高	営業利益	2023年度 4Q為替前提
米ドル	約17億円	約1億円	145.0円
ユーロ	約10億円	約4億円	155.0円
人民元	約9億円	約2億円	20.0円

\*新興国通貨などが、主要通貨に対して期初想定通りに連動しなかった場合、感応度に影響を与えます。

# ROIC計算式

$$\text{ROIC} = \frac{\text{当社株主に帰属する  
当期純利益}}{\text{投下資本}^*}$$

\* 投下資本 = 借入金 + 株主資本

投下資本は、前年度末実績および当年度の各四半期毎の実績  
または見通しを平均して算出。

**2021～2024年度の想定資本コスト：5.5%\***

\*中期経営計画策定時の想定

## <注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。

## <IRに関するお問い合わせ>

**オムロン株式会社**

**グローバルインベスター & ブランドコミュニケーション本部 IR部**

E-mail : [omron-ir@omron.com](mailto:omron-ir@omron.com)

Webサイト : [www.omron.com/jp/ja/](http://www.omron.com/jp/ja/)